

四日市空襲

1945年6月18日

四日市市の市街地が一夜で焼け野原になった「四日市空襲」から77年となりました。私たちが生活している四日市市は、1945年（昭和20年）6月18日に大規模な空襲に見舞われ、その後、8月8日まで合計9回の空襲により、800人以上の市民の尊い命が奪われました。

1941年（昭和16年）12月8日、日本は真珠湾を攻撃してアメリカと戦争を始めました。そして、翌年の4月18日、東京・大阪・名古屋などの都市が空襲を受けます。それは、アメリカ軍のB-29によるものでした。四日市市にも多くの海軍関係の工場群があったため重要攻撃目標とされました。



【市中心街の焼け跡 左の建物は市役所】

1945年（昭和20年）6月18日午前0時45分

アメリカ軍B-29戦略爆撃機89機が、焼夷弾11,000発（約567トン）を投下。約1時間の絨毯爆撃（じゅうたんぱくげき）で全市の35%が焼失、市街地は焦土と化しました。この爆撃による被害は大きく、死者505人、重軽傷者503人、焼けた家9,372戸にものぼり、市民は茫然自失（ぼうぜんじしつ）の状態だったそうです。その後、8月8日まで合計9回の空襲を受け、工場群は壊滅的被害を受けました。全空襲による人的被害は、被災者49,198人、死者808人、負傷者1,733人、行方不明者63人にのぼりました。

時代は昭和から平成、そして令和となり、四日市市民約800人が犠牲となった四日市空襲から、今年の6月18日で77年を迎えます。四日市市では、その悲劇を後世に伝えよう



と18日に、鶴の森公園内の四日市空襲殉難碑前にて、毎年、献花式を行っています。また、四日市市立博物館では、3階の時空街道で『四日市空襲と戦時下の暮らし』の催しが、6月14日（火）～8月31日（水）まで開催されています。この機会に、今一度「戦争の悲惨さ」「平和と命の尊さ」について考えましょう。また、犠牲者を追悼するとともに平和を祈念しましょう。